

銅 概 況

大阪府中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号
加藤金属興業株式会社

◎ 平成 31 年 4 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

4 月	1 日	～	760 円/Kg
4 月	4 日	～	770 円/Kg
4 月	11 日	～	760 円/Kg
4 月	16 日	～	770 円/kg
4 月	24 日	～	760 円/kg

平成 31 年 4 月度は平均で 765.50 円/kg となり、前月比 6.50 円/kg の値上がりとなりました。

海外銅価の動き

4 月の LME 銅相場	4/1～ 4/25 (安値ドル 6,375.50～6,509.00 高値ドル)
4 月の NYC 銅相場	4/1～ 4/25 (安値セント 287.75～297.75 高値セント)

4 月度の LME 現物は、4/1 \$6,498.00 でスタート。中国資源大手 MMG が保有するペルーラスバンパス鉱山の回復が遅れる中、一時 MMG は不可抗力条項を発動する構えを見せるなどで、相場への影響が懸念されたが、周辺道路の封鎖解除をペルー政府が要請したとの報道により鎮火。ドイツの 2 月製造業受注指数は前月比 -4.2% と発表された。また、3 月の中国の製造業とサービス業を合わせた総合 PMI が上昇し 9 か月ぶりの高水準となったことや、1～3 月期の GDP は前年同期比 +6.4% となり減速から横ばいに転じたなどの報道にも銅相場は大きく動かされることはなかった。結局のところ、市場・相場の関心は米中貿易協議に集約されるのが現状と思われる。LME の銅現物相場は、ほぼ \$6,400 台で推移するという、非常に安定した動きとなった。また、在庫についても 16 万 t 後半でスタートするも、ほぼ 19 万 t 前後での動きとなった。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2019 年 1 月 資料より (単位/千トン)

	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,050	23,561	+2.2%	24,237	+2.9%	24,854	+1.9%
全世界地金消費	23,108	23,782	+2.9%	24,413	+2.7%	24,981	+1.8%
全世界需給バランス	-58	-211		-175		-127	

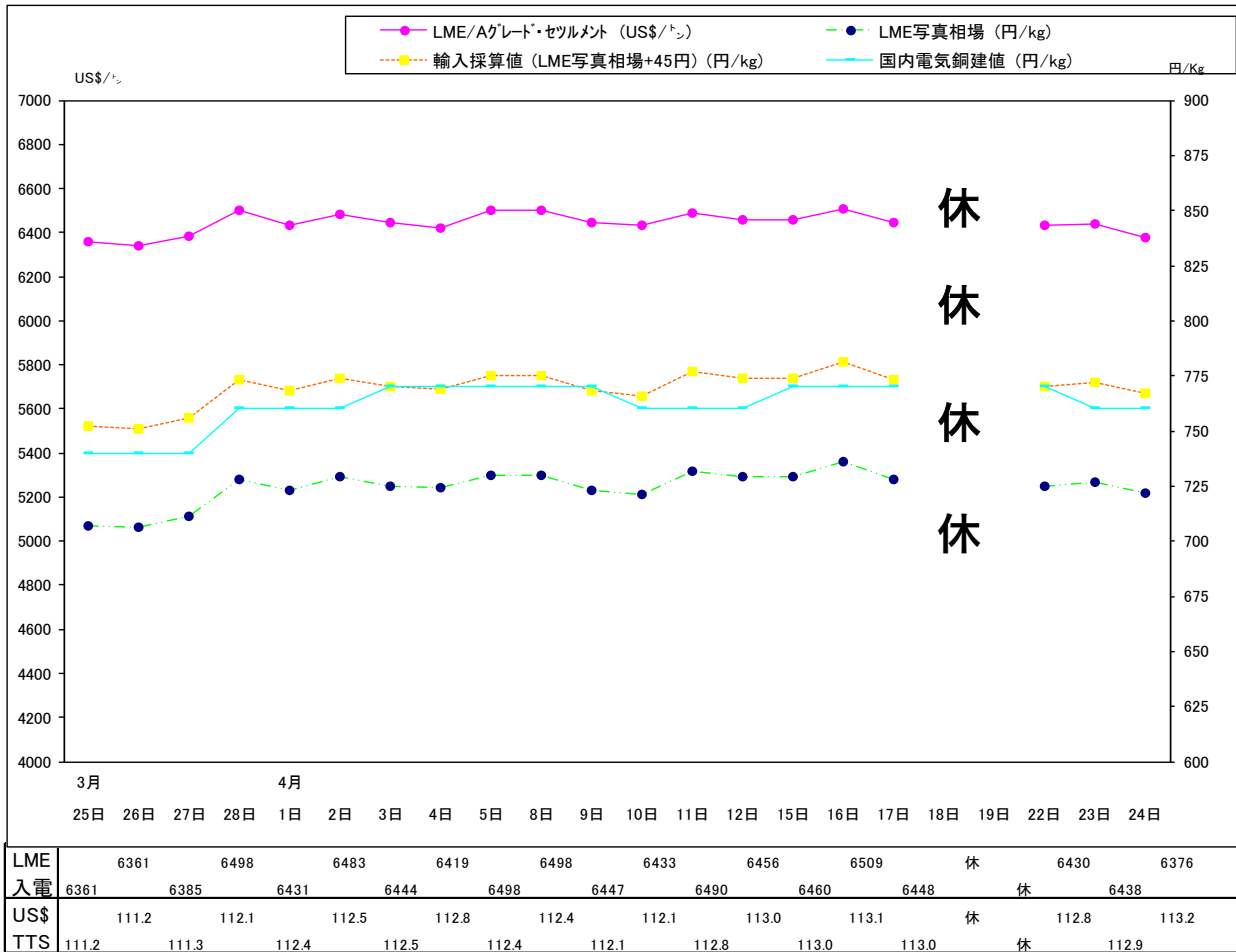
先行き短期見通

国内銅価

4 月度の国内建値は 1 日 760 円/kg でスタート。LME 現物は底堅い形で動かず、為替の上下とタイミングでの建値変動に留まる形となった。4 日 770 円、11 日 760 円、16 日 770 円、24 日 760 円と上がり下がりを繰り返す国内建値となった。

4/25 付 LME \$6,375.00、25 日付 為替 (TTS) 1USD=113.28 円で日本円換算計算値 722 円/kg。2019 年 5 月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限り、760 円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 平成31年4月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 4月 1日 ~ 382 円/kg
- 4月 4日 ~ 385 円/kg
- 4月 9日 ~ 379 円/kg
- 4月 15日 ~ 391 円/kg
- 4月 18日 ~ 376 円/kg
- 4月 23日 ~ 370 円/kg

平均379.90円/kg

平成31年4月は上記の通りで前月比 14.10円/kgの 値上げとなりました。

これはLME亜鉛相場が上昇したため。

◎ その他の建値

電気鉛	4月	284.10 円/kg	(前月比-	10.80 円/kg)
電気錫 (相対)	4月	3,780.00 円/kg	(前月比+	10.00 円/kg)
ニッケル (溶解用)	4月市中価格	1,600.00 円/kg	~ 1,650.00 円/kg	
銀	3月平均	56,120.00 円/kg	(前月比-	1,440.00 円/kg)
	4月26日	55,160.00 円/kg		
金	3月平均	4,680.25 円/g	(前月比-	30.17 円/g)
	4月26日	4,625.00 円/g		

◎ 伸銅品関係

平成31年3月の伸銅品・品種別生産速報 (全国ベース)

		2月度実績	3月度速報	前月比	前年3月度実績	前年同月比
銅	板	1,358	1,399	3.0%	1,336	4.7%
	条	21,521	23,460	9.0%	23,926	-1.9%
	管	9,072	9,656	6.4%	10,520	-8.2%
	棒	2,284	2,253	-1.4%	2,370	-4.9%
	線	260	262	0.8%	275	-4.7%
黄銅	板	611	621	1.6%	672	-7.6%
	条	8,729	9,279	6.3%	9,656	-3.9%
	管	502	580	15.5%	665	-12.8%
	棒	15,419	14,417	-6.5%	16,187	-10.9%
	線	2,067	2,116	2.4%	2,862	-26.1%
青銅	板	2,029	2,217	9.3%	2,939	-24.6%
	条					
	棒	233	241	3.4%	248	-2.8%
	線	64	74	15.6%	70	5.7%
洋白・その他	板	445	375	-15.7%	503	-25.4%
	条					
	棒	39	39	0.0%	38	2.6%
	線	391	395	1.0%	457	-13.6%
合計		65,024	67,384	3.6%	72,724	-7.3%

3月の伸銅品生産速報は、67,384トンで前月比プラス2,360トン、前年同月比-7.3%となり、前年同月比が4ヶ月連続でマイナスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の19年1月分実績及び2月分推定によれば1月分実績は、主力の建設電販順調な自動車部門などに支えられ、総計は5万4千832tで前年同月比3.6%増と再び増加に転じた。部門別では建販と自動車の2部門に加え通信と輸出が増加したものの、電気機械部門は米中摩擦の影響を受け他の2部門と共に前年を割り込んだ。

一方、2月の銅電線の出荷推定では、電力、電気機械とその他内需の減少に加え電力も不調としたが、建販と自動車が増加して総計では5万6千600tで同1.8%増える見通し。

1月分の部門別出荷をみると、プラスグループは通信、自動車、建販、輸出の4部門。その中で通信は建販に連動する面があることや、高周波同軸も動き同3.8%増と2ヵ月連続で伸長。自動車は国内自動車生産台数の好調が反映し同10.7%増と大幅増。

建設電販は東京五輪施設、首都圏再開発プロジェクト、鉄道案件の需要が本格的に動いており、2万6千100t強で同5.2%増加。4ヵ月連続で増進し、2月も伸長する見通しだ。輸出はスポット需要が発生したことがあり28.9%と大幅に増えた。マイナスグループは電力、電気機械、その他の3部門となった。電力は、再び電力会社の投資が鈍化し、同1.2%減少した。電気機械は、米中貿易摩擦と中国経済の減速等が左右し機器用電線が下降して同2.8%減、その他内需もその影響を受け同3.9%減と不調だった。

2019年1月分(実績)・2019年2月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	1月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	2月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	1月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	786	▼10.7	3.8	600	▼23.7	▼23.0	1,420	(1.9)	5.7
電力	(1,494) 3,740	(29.8) 20.0	(20.9) ▼1.2	(1,700) 3,900	(13.8) 4.3	(▼12.5) ▼3.3	1,144 4,387	(20.8) 16.9	(11.1) 3.0
電気機械	(366) 11,250	(▼0.3) ▼2.9	(0.5) ▼2.8	11,800	4.9	▼4.3	352 15,291	(▼2.5) ▼4.7	(3.5) ▼4.8
自動車	(118) 7,057	(▼0.8) ▼2.7	(61.6) 10.7	7,500	6.3	4.8	516 33,863	(▼1.7) ▼0.2	(51.3) 15.4
建設・電販	(21) 26,117	(31.3) ▼7.4	(31.3) 5.2	27,300	4.5	5.1	18 30,474	(12.5) ▼6.9	(20.0) 1.7
その他内需	(85) 4,057	(102.4) 3.3	(49.1) ▼3.9	(800) 4,000	(35.6) ▼1.4	(19.8) ▼1.2	79 7,175	(41.1) 8.2	(38.6) 7.1
内需計	(2,084) 53,007	(22.9) ▼3.6	(19.4) 2.9	(2,500) 55,100	(20.0) 3.9	(▼4.3) 1.4	2,109 92,611	(10.7) ▼2.0	(18.3) 5.6
輸出	(336) 1,825	(33500.0) 3.2	(10.5) 28.9	(100) 1,500	(▼70.2) ▼17.8	(▼66.0) 15.1	170 6,530	(2328.6) 13.4	(17.2) 21.5
合計	(2,420) 54,832	(42.7) ▼3.4	(18.0) 3.6	(2,600) 56,600	(7.4) 3.2	(▼10.5) 1.8	2,280 99,140	(19.2) ▼1.1	(18.3) 6.6
心線販売	(1,509) 26,680	(3.4) ▼7.5	(34.1) 4.9	(1,500) 28,400	(▼0.6) 6.4	(29.6) 1.4	410 19,368	(2.5) ▼9.1	(36.7) ▼11.4

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。

金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2019年1月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比
裸線	3,378	▼12.0	▼3.2	3,383	▼3.7	9.0
巻線	10,515	▼2.8	0.0	11,195	▼4.2	3.7
機器用電線	3,418	▼1.0	▼1.2	9,725	▼0.4	▼5.3
通信用電線・ケーブル	1,364	▼4.3	▼0.5	3,083	▼0.3	▼1.1
電力用電線・ケーブル	20,163	1.8	5.2	21,866	5.0	7.3
被覆線	10,154	▼11.6	5.2	14,665	▼7.8	3.1
輸送用電線	5,840	▼1.0	10.3	35,222	▼0.8	13.1
銅電線計	54,832	▼3.4	3.6	99,140	▼1.1	6.6
EM電線・ ケーブル	78	9.9	20.0	265	18.3	17.8
通信用電線・ケーブル	3,033	0.7	▼5.1	3,532	▼0.4	▼7.0
電力用電線・ケーブル、被覆線	3,118	1.0	▼4.5	3,840	0.8	▼5.0
計	2,420	42.7	18.0	2,280	19.2	18.3
アルミ電線計	2,420	42.7	18.0	2,280	19.2	18.3
光製品	3,548,660	▼9.6	6.9	21,562	▼5.5	4.6
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	4,593	▼0.8	30.3

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

- 国際アルミニウム地金相場、第1週は、米中両国のPMIが予想を上回り、株価が堅調な動きを見せるもののアルミ相場はさほどの影響なくスタート。HYDRO社のKarmoy製錬所の停電による生産への影響は年間27万KMTの生産減。数量も小さく、相場への影響は限定的。第2週、米NEC委員長が知的財産権の問題に進展があったとし米中通商合意に一段と近づいたとしたことで、オープン後上伸するも\$1,900には届かず。IMFが2019年の世界経済成長率を1月に予測した3.5%から3.3%に下方修正したことから、下押しの圧力が強まった。また、ECBが主要政策金利を据え置き、ユーロ売りドル買いになったことも下押しの要因と考えられる。EU緊急会議におけるBrexitの結果も10月まで延長と当面政局不安が続く展開もセンチメント悪化につながった。第3週、米中、日米の貿易交渉の様子見からか堅調に推移。3月の日本主要港のアルミ港湾在庫は29.6万MTと前年比20%増と高い水準を維持している。一方世界では在庫純減が続いていることから堅調な推移は変わらず。第4週、欧州、仏・独のPMIが低調な結果となり、ユーロ安ドル高でベースメタル全体が低調な中、SHFEの保税在庫が急減し、5か月ぶり高値を記録。イースター休暇明けの相場は、米国企業の好調な業績結果を受けた米国株高からドル高が進み上値が重い展開が続く。当面は\$1,850を大きなサポートラインに狭いレンジでの推移が続くと予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2019年 4月積 1,967.00～1,964.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2019年 4月積 235.30～235.00 円/kg
- ・NSP 2019年 2月 258.30 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2019年 4月～6月 270.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'19年2月	'19年3月	'18年3月
月生産	*2,140.0	2,341.0	2,380.0
平均日産	*76.4	75.5	76.8

(*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

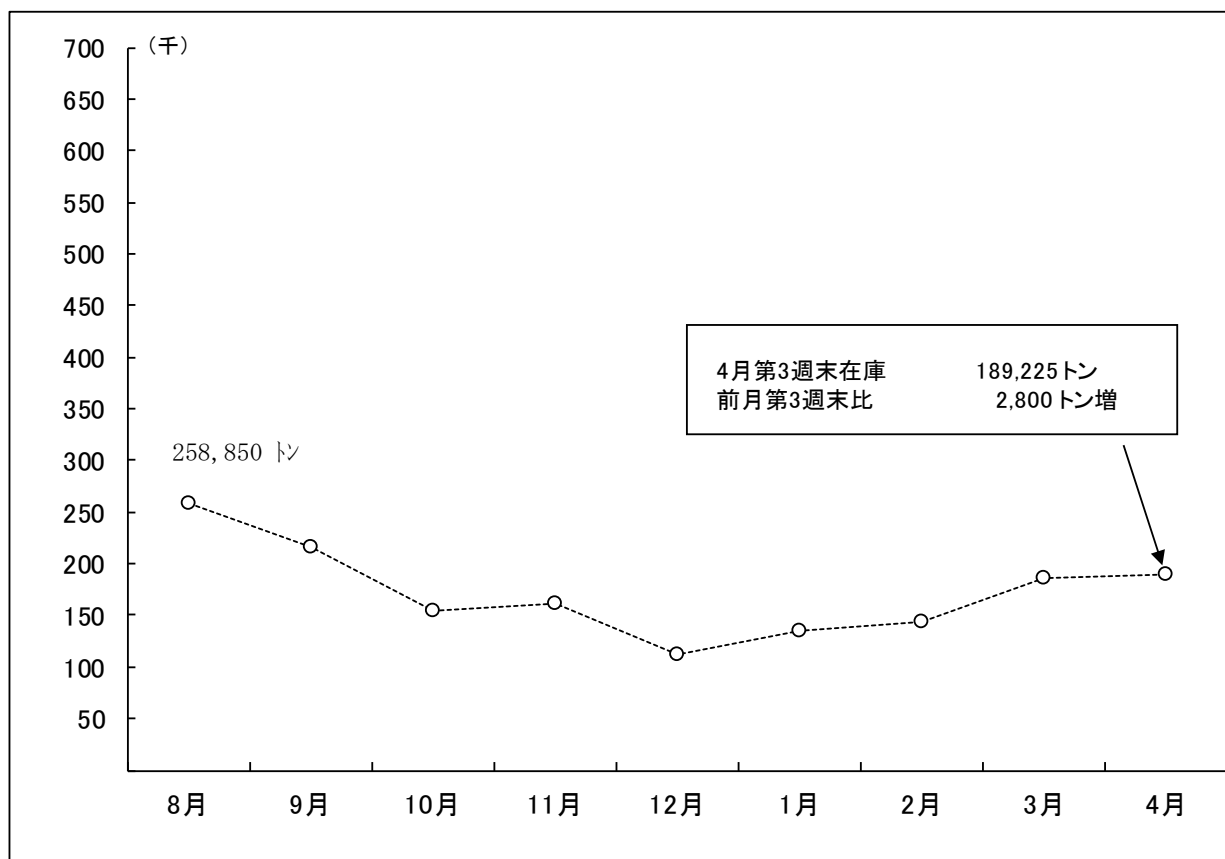
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2018年12月	2019年1月	増減	2018年1月	増減
横浜	150,700	151,100	+400	127,000	+24,100
名古屋	151,100	148,400	-2,700	135,100	+13,300
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	316,800	314,500	-2,300	277,100	+37,400

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫（各月第3週末参考）



◎ COMEX在庫（第3週末）

・ 31年4月19日現在 37,497 S T 前月比 12,083 S T減

◎ 国内山元電気銅在庫

・ 31年2月末 101,594 トン 前月比 12,339 トン減

◎ 伸銅品生産実績

・ 31年2月確報 65,024 トン
 ・ 31年3月速報 67,384 トン 前月比 102.7 %

◎ 電線出荷実績

・ 31年3月速報 59,300 トン 前月比 104.8 %

◎ 軽圧品生産実績

・ 31年 3月	板 類	106,218 トン	
	押 出 類	65,310 トン	
		<hr/>	
		171,528 トン	前月比 109.2 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。